

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

吹田市内の府立高校として最も長い歴史を持つ本校は、「伝統校」の誇りを持ち、地域に根差した信頼できる学校として生徒の持つ能力を最大限引き出すことを目標としている。とりわけ、生徒が自ら以下の力を身につけられるよう、教職員が一体となり、多様な取組みを進めていく。

- 1 基本的な生活習慣を確立し、規範意識を育む力 2 地域に学び、志と希望をもって勉学に打ち込む力 3 将来の社会と人生を見据え、進路を拓く力

2 中期的目標

★ここ3年、本校はスピード感を持ち、多様な観点から積極的に改革を進めてきた。今年度は、各改革の確実な定着とブラッシュアップに重点的に取り組む。

1 信頼される学校づくり

(1) 新学習指導要領を踏まえ、生徒の持つ学力を最大限に引き出す。

ア 公開授業、研究授業の定期実施、授業アンケートの個人・科目・教科による系統的かつ綿密な分析等に基づき、「吹高学習スタンダード」を策定するとともに、「分かる授業開発PT」（以降 WJK）の取組みを踏まえた ICT の活用促進などにより「わかる授業、興味を持てる授業」をめざして、さらなる授業改善に取り組む。あわせて、これまで蓄積してきた「朝の学習会（朝ガク）」に関するノウハウをきっちりと整理し、継続的に基礎学力の定着を図る。

※生徒向け授業アンケートにおける授業等学習活動に関する項目の評価（満点 4.0/H25 平均：2.90）を平成 28 年度には 3.20 以上に引きあげ、維持する。

(2) 卒業後の人生を見据え、規範意識と豊かな心をはぐくむ。

ア 遅刻「0」の学校をめざし、学校をあげて「朝ガク」の充実、放課後の「居残り指導」を徹底する。また、授業規範の確立を図る。加えて、コミュニケーションの大切さを実感し身につけさせるため、「朝のあいさつ運動」を拡大する。

※平成 27 年度には、遅刻総数を 2,500 件以下にし、それを維持する。（H24：3,329 件、H25：3,150 件）

※生徒向け学校教育自己診断の規範意識に関する全ての項目の肯定率（H25：42.8%）を平成 28 年度には 60%以上に引きあげる。

※朝のあいさつ運動への延べ参加者（H24：44.6% H25：55.1%）を平成 28 年度には全校生徒の 70%以上にする。

イ いじめを許さないことはもとより、互いを認め合える集団づくりを推進する。

※生徒向け学校教育自己診断の人権に関する項目における肯定率（H25：56%）を毎年引きあげ、平成 28 年度には 70%以上にする。

(3) 生徒が主体的に進路目標を定め、実現できるよう、平成 25 年度に策定した吹田進路プログラム（以下 SSP）の定着と継続的な見直しに努め、「展望を持たせる取組み」をさらに充実させる。

ア 平成 26 年度中に、高校 3 年間を見据えた「吹田進路指導ノート（仮称）」を作成し、弛むことなく系統的な進路指導計画への改善を進め、平成 28 年度には SSP を確実に定着させる。また、平成 23 年度から全校的に取り組みはじめた進学講習のさらなる定着・発展に努める。

※生徒向け学校教育自己診断の進路指導に関する全ての項目の肯定率（H25：72.7%）を毎年引きあげ、平成 28 年度には 80%以上にする。

※平成 23 年度から全校的に取り組み始めた進学講習（H25：132 人）への参加生徒数を平成 28 年度には 250 人以上とし、維持する。

イ 平成 25 年度に「学校経営推進費事業」を活用して整備した ICT 機器の効果的活用、個別自習室・マルチルーム等のさらなる活用促進等により、引き続き生徒に自学自習の習慣を定着させ、進学実績のさらなる向上に努める。

※2 年次 1 月の基礎学力調査の結果（H25：C ゾーン以上 17.9%）を段階的に引きあげ、平成 28 年度には C ゾーン以上の割合を 45%、B ゾーン以上の割合を 15%以上に引きあげる。

※平成 27 年度には、関関同立・産近甲龍レベルの難関・人気大学への合格者 50 人以上をめざす。

2 学校生活の充実・魅力ある学校づくり

(1) こども未来専門コース、進学クラスの円滑な推進

ア 生徒にとっての「魅力ある学校づくり」の一環として、平成 23 年度入学生から開設したこども未来専門コースについて、大学等との連携強化をはじめ近隣の幼稚園・保育園との協働によるデュアル・システムの導入など、生徒の総合的な資質の向上に向け、継続して円滑な推進に努める。

※こども未来専門コースを選択した生徒たちにアンケートを実施し、コースで学ぶ内容等についての満足度（H25：94%）を 90%以上で維持する。

イ 引き続き、学校全体の授業の質的向上に努める。とりわけ、大学進学希望の高まりに応じて開設した「進学クラス」に対する習熟度別講座ならびに土曜講習等を計画的にレベルアップするとともに、進学クラスでの成果を踏まえて、補習・講習の充実、質問会・宿題の量的見直し、個別自習室の利用促進などによって授業外の学習時間を増加させ、生徒全体の学力の向上を図る。

※進学クラスを毎年生徒の希望に応じて 1 クラス以上開設する。進学クラスの生徒が受験する外部模試の偏差値 52.5 以上の生徒数（H25：5 人）を、平成 28 年度には 10 人以上にする。

(2) 生徒の集団や学校への愛着・帰属意識を高めるため、学校行事・部活動のさらなる充実、活性化を図る。

ア 行事を通じて得られる成功体験により生徒の自己肯定感と自己有用感を高めるため、とりわけ、学校行事の「質の向上」をめざす。また、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を高め、新たな提案や活動ができる人材を輩出できるよう、生徒・生徒会の主体的な活動を積極的に支援する。

※生徒向け学校教育自己診断における学校生活全般に関する項目の肯定率（H25：68.5%）を平成 28 年度には 75%以上とし、生徒向け学校教員自己診断における自主性・積極性に関する肯定率（H25：84.2%）を 85%以上で維持する。

イ 入学時のクラブ紹介に工夫を凝らすなど、部活動への加入を促す取組みを計画・実施するとともに、部活動の質の向上をめざす。また、卒業生や地域との連携・交流を深める部を増やす。

※部活動の加入率（H25：54%）ならびに部活動に対する満足度（H26 年度新設）を引きあげ、H28 年度には加入率を 60%以上、満足度を 80%以上にする。

(3) 安心・安全な学校生活を送れるよう、教育相談体制の充実、ならびに保護者等との連携強化を図る。

ア 来年度以降も保護者や校外の関係機関との連携を強化するとともに、生徒情報会議を月 1 回開催し、課題のある生徒の早期発見・対応を図る。加えて、生徒相談室を昼休みと放課後に開放し、支援や指導が必要な生徒により適切な支援・指導を行う体制を確立する。また、スクールカウンセラーによる相談日を年間 15 回設定し、生徒や保護者からの相談に対応する。さらに、これまで実施してきた救急講習会の参加対象を拡大し、安全・安心な学校づくりに資する。

イ 引き続き、体育祭・文化祭やクリーンキャンペーンなどの学校行事への保護者・地域住民のより積極的な参加を図り、生徒・教職員との交流の機会を拡大する。同時に PTA 実行委員会等への教職員の参加を促し、状況報告、意見交換を行うなど双方向的な関係の深化に努める。さらに、学校見学会を活性化し、より広汎な中学生の参加を図るとともに本校生徒の運営への参加を広げ、中学生との交流の機会を増やすことで「吹高生」としての自覚を高める。

※生徒・保護者向け学校教育自己診断等の教育相談、保護者・地域との連携に関する項目の満足度（H25：平均 64.1%）を毎年引きあげ、平成 28 年度には 70%以上にする。

3 校内組織・教職員集団づくり（運営委員会を中心とした組織的運営）

(1) 運営委員会を中心としたミドルアップ・ダウンを確実に定着させ、学校運営の機動性をさらに高める。また、これまで以上に積極的・意欲的で一体感のある教職員集団の構築をめざし、学校経営計画の実現に向けた建設的な改善策や新たな取組みが、より積極的に誰からも提案される学校風土を醸成する。

ア 学校運営に関わる大きな取組み・計画について運営委員会で議論を深め、目標を共有した組織的、一体的な取組みを確実に定着させる。

イ 首席を中心に、学務グループ（教務部・進路部）、生徒グループ（生徒指導部・生徒会部・保健部）が、それぞれグループ内の連絡調整をより円滑に行う。

※教員向け学校教育自己診断等の「学校運営」に関する項目の肯定率（H25：55.4%）を毎年引きあげ、平成 28 年度には 65%以上にする。

(2) ICT 等、校内ネットワークを活用し、諸会議の効率化に努める。

ア 教職員が生徒と向き合う時間を確保するため、運営委員会から積極的な呼びかけを実施し、省略できる連絡事項は校内メールによる情報共有をさらに促進するとともに、会議資料の簡素化、職員会議の内容のさらなる充実を図る。 ※引き続き、職員会議に要する時間を平均 1 時間以内とする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 10 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導】 ・授業規律については、93.7%の教員が「きちんとして注意している」と回答しているが、生徒自身は「授業規律は保たれている」という設問に対する肯定率は68.46%に留まっている。この結果から、教員は注意してはいるものの、必ずしも授業への集中に効果的に結びついていない部分があるという現状が浮きあがってくる。学校としてはこの結果を真摯に受け止め、個々の教員がそれぞれの授業力の向上に努めるとともに、生徒への働きかけも強化していく必要があると考える。</p> <p>【進路指導】 ・進路希望に応じた教育課程の設定、進路HRや情報提供などの進路指導について、生徒76.8%保護者81.7%の肯定的な回答をいただいた。より一層3年間を見通した進路指導計画のもと、一人ひとりの生徒に向きあうきめ細かな進路指導を心がける。</p> <p>【生徒指導】 ・遅刻 (90.8%) ・染髪 (92.9%) ・携帯 (96.2%) に対する生活指導について、保護者から肯定的な回答をいただいた。生徒からも遅刻防止 (92%) や登校マナー向上 (81.8%) への意識について高い肯定的回答がある。今後も保護者のご理解を得つつ、家庭と学校が協力してこれらの指導を続けていくことが重要だと考える。 ・体育祭・文化祭等の学校行事についても、生徒・保護者ともに肯定的な回答がすべての項目で8割を超えた。今後も、生徒たちの自主性、積極性を伸ばせるよう学校行事の充実を組織的に進めてゆきたい。 ・教育相談について、保護者から87.5%の肯定的な回答をいただいた。学校に悩みを相談できる場があると回答した生徒は59.6%と、昨年の約4割からは増加している。相談室通信等の発行が効果を上げているとみられ、学校内外での教育相談・支援教育への認知を高める工夫をすることで、生徒一人ひとりがより多くの教職員に相談しやすい環境を整えていく。</p> <p>【学校運営】 ・昨年度53.0%であった教職員の学校運営に関する肯定的な回答が、60.4%となり微増ではあるが学校としての教育目標達成に向けて、運営委員会を中心として全教職員が日常的に議論を深める重要性、有効性についての認識が定着してきている。 ・諸会議の効率化については、教職員の肯定的回答が昨年度の8割から63.8%に減少している。これは職員会議の時間短縮が定着してきたと同時に、時間に対する意識が高まり、より一層の時間短縮への要望が高まっていると考える。教職員研修の時間を確保したり、生徒と向き合う時間を確保できるよう、全教職員が協力して諸会議の時間を短縮し、実際の取り組みに力を入れる意識を高めていく。</p>	<p>■第1回学校協議会 (6月23日実施)</p> <p>【平成 26 学校経営計画】 について】</p> <p>○ 遅刻の件だが、4年前の1万3千件から3千件にまで減少し、現状は下げ止まり的とのことであり、何か対策が必要ではないか。生徒に意識を持たせるには、生徒に対し数字を示していくことも大きな効果があると思う。また、ある特定の子が繰り返し遅刻しているのであれば、目標は総数ではなく、生徒数の割合としてはどうか。</p> <p>○ 岸辺地区の民生児童委員総会で、朝の自転車の通行状況が話題になり、5月某日、吹田高校前で調べたところ、8時10分から30分の間で230～40台位の自転車が行き来し、そのうち170台位が吹田高校の生徒であった。保育園の子どもや高齢者が動き出す時間帯と吹田高校の自転車通学の時間帯が重なると不要なトラブルも危惧される。地域をあげて取組みを考える必要がある。</p> <p>○ PTAとして、今年5月自転車マナーに関するパンフレットを生徒に配付、指導をした。その後、吹田東高校、北摂つばさ高校も含め、吹田地域の自転車マナーの向上に何かできないか話を進めようとしている。地域を巻き込んでいくことを吹田高校から発信していくことで、通学マナーの向上を進めていければと考える。</p> <p>○ 地域住民から見て、最近の生徒はおとなしくなったし、真面目になった。やんちゃな子が少なくなったというのが実感。本当に先生方が指導されてきた賜物と思う。</p> <p>■第2回学校協議会 (12月8日実施)</p> <p>【平成 26 年度 授業アンケート実施結果について】</p> <p>○ 昨年の2回目の授業アンケートから、実技・実習用(芸術・体育・家庭科)と座学用に分けられ、質問項目も分けられた。結果をみると座学と実技で差が大きい。これは質問内容に大きな違いがあるためではないか。似たような設問方式にする方がより正しく生徒受け止めがわかる。是非とも工夫いただきたい。</p> <p>【平成 26 年度 学校教育自己診断実施結果について】</p> <p>○ 朝ガクの関係で、私が勤務する学校では、従前は振り返りテストを学年ごとに行っていた時期もあったが、今は全学年、読書をさせている。どの子どもにとっても落ち着いて、本に向かって過ごせる10分間があるので、そういう形の方がうちの子どもたちにとっては良かったと思っている。子どもたちの特性をつかんで組み立てをしてやると、一定の落ち着きが出てくると思う。</p> <p>○ 登校している生徒たちの自転車を乗っている風景を気にしているが、きちんと赤信号は守っているし、二人乗りしている生徒はほとんど見かけない。歩道を歩いている方のことも考えながら、運転をしている生徒が大半。よくなっているというところも生徒に伝えていかないと、生徒はだんだんモチベーションが下がっていく。良いところを褒める指導も大切。</p> <p>■第3回学校協議会 (2月12日実施)</p> <p>○ 自転車マナーは3年前と比べれば、ずいぶん良くなった。</p> <p>○ 進学クラスの教育充実にむけ学校の努力を心強く思う。特に講習内容の充実だけでなく、カリキュラム変更まで進めたことは評価する。今後の成果に期待する。</p> <p>○ クラブ活動の活性化の充実に引き続き取り組んでほしい。</p> <p>○ 評価指標の遅刻件数は、在籍数の増減に影響されない%などではどうか。</p> <p>○ 学校HPの充実を望む。</p> <p>○ 地域から見て、学校が楽しいと多くの生徒が回答していることに安心している。</p> <p>○ 数値目標を示すのはわかり安いが、次々とその目標値を上げていかねばならなくなる。例えば、遅刻件数 3000 件を維持できていることを、先生方の弛まぬ頑張りがあるからと評価することもできるのではないか。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">1 信頼される学校づくり</p>	<p>(1) 生徒の持つ学力を最大限に引き出す</p>	<ul style="list-style-type: none"> 吹高スタンダード、年2回（7月、12月）の授業アンケート、公開授業、WJKによるICT機器を活用した取組みなどを通して各教科の授業力の向上を図る（継続・発展） 補習・講習の充実、質問会・宿題の増加、個別自習室の利用促進などを通して授業外の学習時間を増加させ学力の向上を図る。（継続） 引き続き、教員・生徒が一体となり、授業マナー向上に取り組む。（机上整備・準備の徹底生徒への「授業マナー向上」ポスター募集、携帯電話電源OFF等）（発展） 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒向け授業アンケートにおける授業等学習活動に関する項目の満足度3.0以上 基礎学力調査（9月・1月実施）で生徒の授業外学習時間を比較し、10%以上増加させる。 生徒向け学校教育自己診断の授業規律（マナー）に関する設問に対する肯定率80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度「吹高スタンダード」を「進学クラスCAN-DOリスト」として完成。WJKによる研究授業を6回実施するとともに、授業アンケートの結果を受けて、教科・科目での振り返りを行い、授業力向上に向けての取り組みを学校全体として進めている。2回の授業アンケート満足度平均は3.0。今後も授業アンケート等を活用するとともに、「吹高CAN-DOリスト」の精度を上げながら授業力向上へと取組む。（○） 一日当たりの平均授業外学習時間は、昨年1月と比較して20%増。9月から1月は14%増加している。しかしながら、ほとんど自宅学習しないと答える生徒が半数以上いる（前年とほとんど変化なし）中で、家庭学習時間の増加を生徒全体に働きかける工夫が必要である。（◎） 年度当初に教員全体で授業規律の具体的内容を確認し、マナー向上に取り組んだ。しかし、生徒の受け止めは、授業規律に関する肯定率68.4%にとどまり、今一度教員側の共通認識を深め、生徒への取組みを強化する必要がある。（△）
	<p>(2) 規範意識と豊かな心をはぐくむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 全学年で遅刻者に対する居残り指導を継続 頭髪指導の継続 正しい制服着用の徹底（継続・発展） 登下校マナーの向上 いじめアンケートの実施、迅速な対応（発展） 人権ホームルームの質・量両面での向上（発展） 	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻数2,500件未満 帰宅指導件数35件未満 下校時のブレザーチェックで着用率100%を維持する。 生徒指導部・生徒会部を中心にマナー向上に向けた取組みを展開し、生徒の意識向上を図る。生徒向け学校教育自己診断における登下校マナーに関する肯定率80%以上 6・7月にいじめアンケートを実施し、迅速な対応を行う。 2・3学期に人権HRを行い、生徒向け学校教育自己診断の人権に関する項目の肯定率60%以上 生徒向け学校教育自己診断の進路指導に関する質問に対する肯定率75%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 年間遅刻件数は3506件。昨年比増の状況。次年度は居残り指導に加えて、新たなアプローチを工夫する必要がある。（△） 頭髪帰宅指導は、17件(H24:56件, H25:27件)の状況にある。生徒に学校の指導が浸透していることを実感できるようになってきた。（◎） 生徒会部と連携しながら行った下校時のブレザーチェックでは、ほぼすべての生徒が着用できるようになっている。（○） 自転車マナー向上のポスターセッションや、新学期当初の期間、立ち番指導の教員を増員して広範囲に指導を行うなど、新規の取組みも行えた。登下校マナーに関する肯定率81.8%。引き続き地域住民の理解を得られるよう新規の取組みの工夫も必要である。（◎） 6月にアンケート実施。その結果を踏まえ経過観察の必要な事例を含め、深刻な事案に発展することなく迅速に対応できた。（○） 1年生はネットトラブル、2年生はデートDV、3年生は就職差別に関する人権HRを実施できた。生徒向け学校教育自己診断での肯定率は65.7%で、昨年度より9.9ポイントの増。次年度も、3年間を見通した人権教育HRの充実を図る。（◎）
	<p>(3) 展望を持たせる進路指導の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「吹田進路指導ノート（仮称）」を作成・配布し、成果検証と改善点の検討を行うことで、「吹田進路プログラム(SSP)」の修成と定着を図り、系統的・組織的な指導をさらに充実させる（発展） 全学年で平日に実施している進学講習(H25年度継続参加者:132人)を質・量ともにさらに充実させ、希望する大学等への進学の実現に努める。（発展） 個別自習室、マルチルーム、スタディールーム等を用いて自学自習する生徒支援の一層の充実 就職希望生徒（学校幹旋及び公務員）に対してさらにきめ細かな指導を徹底（発展） 	<ul style="list-style-type: none"> 進学講習（平日）への継続参加生徒数160人以上 2年次1月の基礎力判定テストの学習到達Cゾーン以上（人気私大の推薦入試合格可能性40%以上）の割合（H25:17.9%）を25%に引きあげる。 関関同立・産近甲龍レベルの合格者（H25:5人）を倍増させる。 就職希望生徒（学校幹旋）の卒業時の就職決定率100%をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> 「吹田進路指導ノート」は作成、配付済み。学校教育自己診断の進路指導への肯定率は76.8%。ただし、2年生が69.2%と数値が低くなっており、3年間を見通した丁寧な進路指導計画となるよう、より一層の充実をめざす。（◎） 進学講習の出席率は、科目によってばらつきがあるものの、受講生徒数は3学年でのべ135名の参加があった。さらに受講者を増やすとともに、継続させるための手立てを工夫する必要がある。（△） 2年次1月の基礎力判定Cゾーン以上の割合は25.7%。今後も生徒一人ひとりの状況を学年・教科ともに共有し、学力向上に向けた取組みを続けてゆく。（○） 関関同立・産近甲龍レベルの合格者は出せなかった。次年度進学クラス1期生が受験結果を始めて出す年度となるが、志望校の一般入試まで努力を続けられるサポート体制を作る必要がある。（△） 3学期末まで、粘り強い指導によって、学校就職の内定率は、100%を達成した。（○）

2 学校生活の充実・魅力ある学校づくり	<p>(1) こども未来専門コース、進学クラスの円滑な推進</p> <p>(2) 学校行事・部活動のさらなる充実、活性化</p> <p>(3) 安心・安全な学校生活、教育相談体制の充実、ならびに保護者等との連携強化</p>	<p>・こども未来専門コースで展開される専門教科の授業の質をさらに向上させる。(継続)</p> <p>・平成26年度から実施する「保育実習」を円滑に推進する。(新規)</p> <p>・昨年度から開設した進学クラスを今年度も1クラス以上開設し、引き続き土曜講習を計画的に実施する。(継続)</p> <p>・引き続き、生徒会執行部とそれ以外の生徒の連携を促し、生徒が自主的・積極的な活動を展開できるような支援を行うとともに、それを実現し得る校内体制をさらに強化する。(継続・発展)</p> <p>・校内外に向けた部活動の情報提供を活性化し、部活動の質・量、両面での向上を図る。(新規)</p> <p>・生徒・教職員による安全点検を定期的に行い、安心・安全な学校環境を維持する。(拡大・発展)</p> <p>・関係各機関と連携し、防災避難訓練、救急処置講習会、薬物乱用防止教室を実施し、地域的な安全対策を推進する。(継続・発展)</p> <p>・保護者や生徒保健委員会、地域を巻き込んだ清掃活動を通して美化意識を向上させる。(継続)</p> <p>・多様な生徒情報を保健部主導による月1回の生徒情報会議で共有し、課題のある生徒への早期対応に取り組む。(継続・発展)</p> <p>・健康相談を随時実施し、生徒や保護者が有する心身の健康についての悩みや相談にいち早く対応する。(継続)</p>	<p>・生徒向け授業アンケートの満足度90%以上</p> <p>・受入幼稚園・保育園に対するアンケートを実施し、この取り組みに対する肯定率を70%以上</p> <p>・土曜講習の満足度80%以上</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断における、学校行事への自主性・積極性に関する項目での肯定率85%以上</p> <p>・学校教育自己診断での教員向けアンケートで、学校行事の組織的な取り組みに関する質問項目での肯定率70%</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断における、部活動に関する満足度60%以上</p> <p>・生徒・保護者向け学校教育自己診断における、部活動に関する肯定率75%以上</p> <p>・定期安全点検を年間3回以上実施し、学校で可能な対応については、速やかに実施する。学校での対応率90%</p> <p>・左記の各種研修・講習を確実に実施する。とりわけ、救急処置講習会については、参加対象者の範囲を拡大する。</p> <p>・生徒保健委員によるミニ・クリーンキャンペーンを年間8回以上実施</p> <p>・相談室通信を年間3回以上発行</p> <p>・健康相談を定期的を実施</p> <p>・生徒・保護者向けアンケートでの教育相談、保護者・地域との連携に関する項目の認知度を60%以上</p>	<p>・前期終了時での授業に対する肯定率は100%と、生徒のニーズに合った授業が行えた。今後も、生徒の興味・関心を引出せるよう、関係機関とも連携を深め、工夫していく。(◎)</p> <p>・前期(4月～9月)後期(10月～1月)各終了時での受け入れ園に対するアンケートでは、全園より次年度の生徒受入れに対して、肯定的な回答をいただいた。肯定率100%(◎)</p> <p>・H26年度、1年2年とも進学クラス2学級開設。土曜日講習の満足度は69.9%。次年度以降、生徒の要望を踏まえながら、より効果的な土曜日講習とし、3学年一斉の土曜日講習実施となり、運営上の工夫が必要となる。(△)</p> <p>・学校行事への生徒の自主性・積極性に関する設問に対する肯定率は83.8%でやや目標値を下回るものの、1年生では87.4%で昨年度より高い肯定率であった。来年度は、2・3年生の引き上げを目標にする(○)</p> <p>・「学校行事の組織的な取り組み」については、肯定率64.6%で昨年度68.9%とほぼ同程度であるが、最も肯定的な回答である「そう思う」が16.7%で昨年度8.9%から増加しており、過去3年間で一番高い。今後、担任団への組織的な働きかけの工夫が必要である。(△)</p> <p>・部員に対して満足度調査の結果、83%の生徒が現在のクラブ活動について肯定的に捉えている。(◎)</p> <p>・生徒保護者対象のアンケート結果は平均74%で昨年度の数値をほぼ維持した。生徒会新聞や部代表者会議等をさらに活用し、質・量の両面での支援を充実させたい。(○)</p> <p>・定期安全点検を7・12・1・3月(予定)の4回実施した。事務室と連携し、学校で可能な処置についてはすべて行った。学校での対応率100%。来年度は日常の安全点検のさらなる啓発に努めたい。(◎)</p> <p>・防災避難訓練(6・9月)、救急処置講習会(7月に2回)、薬物乱用防止教室(6・11月)を実施した。はしご車による避難訓練や参加者をPTA・生徒に拡大し、昨年度の2倍の参加者を得た救急講習会。回数を2回に増やして実施した薬物乱用教室等、安心して安全な環境づくりにつないだ。来年度もより多くの生徒を対象とした講習会や教室を開催したい。(○)</p> <p>・生徒保健委員によるミニ・クリーンキャンペーンを10回実施。学校教育自己診断で清掃に関する肯定率は、昨年度に比べ、生徒で9～21.8%、保護者で3.6%増加した。来年度も様々なアプローチを工夫していきたい。(◎)</p> <p>・相談室通信を年間4回発行した。来年度はさらに発行回数を増やしたい。(◎)</p> <p>・内科と歯科の健康相談を年間7回に実施し、内科で計20名、歯科で計72名の生徒に対して学校医、学校歯科医に相談にあたっていただいた。より多くの生徒が相談できるよう実施方法を更に工夫していきたい。(○)</p> <p>・学校教育自己診断で、生徒の59.6%、保護者の77.9%が心身の健康や悩みについて学校に相談できるとの回答であった。(平均68.8%)昨年度に比べ、生徒で11.6～19.7%、保護者で6.1%増加している。また、保護者の97.1%が本校の教育相談体制のさらなる充実を期待してくださっている。来年度もさらなる充実を努めたい。(◎)</p>
3 校内組織・教職員集団づくり	<p>(1) 学校運営の機動性をさらに高める</p> <p>(2) 職員会議の簡素化・効率化</p>	<p>ア・運営委員会の役割を確認し、教育目標の達成に向けた取り組みなどの議論を深め、スピード感を持って目標を共有した組織的、一体的な取り組みを行う。(発展)</p> <p>イ・学務グループと生徒グループが、グループ長(首席)主導により、グループ内の相互協力体制を確立し、組織的校務運営の効率化を高める。(発展)</p> <p>・担任団や各分掌・事務室等から、教育目標の達成に向けた具体的な改善方策や新たな取り組みを、積極的に提案する。(継続)</p> <p>・教職員の、職員会議の迅速化に対する意識のさらなる向上に努め、より円滑な議事進行をめざす。(発展)</p> <p>・校内メール、共有フォルダ、スクリーン映写資料を活用して報告事項の精査、資料の簡素化、会議に要する時間のさらなる短縮をめざす。(発展)</p>	<p>ア・イ</p> <p>・学校運営に関する教員向けアンケートを実施し、校内組織の機動性・教職員集団の活性化に関する項目の肯定率60%以上</p> <p>・職員会議の平均所要時間1時間以内</p>	<p>・学務グループ、生徒グループ会議を有効に活用し、効率的な組織的校務運営ができた。校内組織の機動性・集団の活性化・協働意識・集団の活性化に関する肯定率60.4%。昨年の53.0%より増加し、指標をわずかに上回ることができた。引き続き、運営委員会の役割を確認し、議論深め一体的な取り組みにつなぐ。(○)</p> <p>・3時40分開始ではあるが、資料が多く着席に時間がかかっていたりと開始が遅れることが常態化しているため、各教員の時間厳守の意識向上が必要。校内メール、共有フォルダ、スクリーン映写資料等を活用して、会議は恒常的に70分程度に納まったが、引き続き円滑かつ効率的な進行をめざす。(○)</p>